



2024年7月1日 夏季号

コミッショナー通信

発行 ボーイスカウト東京連盟 県コミッショナー 村山 大介

夏季の諸活動に向けて

7月下旬から、学校は夏季の長期休業に入ります。各団、隊におかれましては、舎営、キャンプなどの野外活動を計画し、準備を進められている時期ではないでしょうか。

様々な活動に入る前に、以下の内容について、団、隊内で共有、確認し、スカウトにとって安全、安心な活動の実施をお願いします。

1 感染症への対応

- 感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）の感染防止、感染拡大予防を徹底する。（手指の洗浄・消毒など）
- 食中毒防止のための対策を徹底する。食材料の保管、調理時、食事の衛生管理を徹底する。
- 活動前、活動後の健康観察は家庭と連携して行う。
- 活動中、体調が悪くなった時の対応（家庭への連絡方法、帰宅方法など）について、事前に確認する。

2 熱中症への対応

- 天候や熱中症アラートなどの情報収集を的確に行う。
『環境省 熱中症予防情報サイト』
<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>
- 活動場所の気温、日陰の有無、飲料水の確保などについて事前に把握する。
- 炎天下での活動は避ける。やむを得ず炎天下で活動しなければならない時は、水分補給と日陰での休憩を十分確保する。熱中症アラートが発令されている場合は、活動を中止する。
- 屋外の活動時は、帽子の着用、飲料水を携行させる。



3 水のプログラム実施上の注意

水の事故は毎年必ずと言ってよいほど発生しています。川や海はプールと違い、水流、水量が常に変化します。また、水底が把握し辛く、急な深みに足を取られるなど危険です。

- 入水する前には必ず健康チェックをする。
- スカウト個々の泳力を事前に把握する。
- ライフジャケット等の正しい着用方法を事前に体得する。また、必要に応じて着用できるよう、人数分を準備する。
- バディシステム（二人一組）を活用し、スカウトが互いに安全を確認しながら活動する。また、指導者を適正に配置し、迅速に救助できるようにする。



- 膝の高さよりも水深が深くなる場所には行かない。水浴びや水遊び程度にとどめ、泳がないなどのルールを守る。
- 水のプログラム実施場所は、複数の指導者で安全確認する。

4 天候の急変への対応

夏季は台風が発生する時期です。また、昨今、線状降水帯による大雨、突風、雹など天候の急変による被害も多発しています。

- 天候に関する情報を収集し、指導者間で共有する。
- 河川の近くで実施するプログラムについては、天気予報等の情報により実施の可否について早期に判断する。併せて、河川の増水等が発生した場合の避難場所（高台など）を、事前に調査し、避難方法等も含めて検討しておく。
- 台風や線状降水帯の影響により、河川の増水、氾濫が予想される場合は、絶対に河川に近づかない。



5 セーフ・フロム・ハームの徹底

- 指導者はスカウトの様子（言動、行動、表情、コミュニケーション等）をよく観察する。
- 指導者は「教育者」として、節度ある行動をする。活動中は禁酒、禁煙を厳守する。
- 活動中、セーフ・フロム・ハームのトラブルが発生した場合の通報の方法について、指導者間で共有する。

6 野外活動での安全確保

- 火気の近くに、引火物（ガソリン、灯油、消毒用アルコールなど）を置かない。消火器材を必ず用意する。
- スカウトの技能の習熟に合わせて、役割分担をする。特に刃物（ナタ、斧、草刈り鎌など）の取扱いは、習熟した技能を身に付けていることが必要です。火の取扱いについても、事前に安全な取り扱いを理解、実践できるよう訓練してください。



7 保護者への説明と理解

- 舎営、キャンプの活動（活動の意義、活動内容など）について、保護者に説明し、理解を得てください。
- 安全対策、緊急時の対応について、説明し、理解と協力を得てください。

活動は「無事故があたり前」「安全はすべてを優先」です。そのためには、計画の検討、安全対策の策定が必須です。どんなに優れた計画書や安全対策があっても、それらを指導者一人一人が深く理解し、実行されなければ、大きな事故につながります。実行されていても事故は起こるかもしれませんが、事故の影響を最小限にすることはできます。

また、スカウトが野外活動スキルを高いレベルで身に付けることも必要です。これまでの経験、年齢、技能の習熟度等を考慮し、プログラムの設定、役割分担をすることで、安全な野外

活動を展開することができます。

指導者の事故も多くなる時期です。指導者のみなさんも自身の安全について再確認し、事故防止に努めるとともに、スカウトたちに最高のプログラムの提供をお願いします。